

## APRU-IRIDeS マルチハザードプログラム サマースクールを開催しました（2014/7/22-25）

テーマ：APRU, マルチハザードプログラム

場所：東北大学片平キャンパス片平北門会館 2 階（宮城県仙台市）

東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS）と環太平洋大学協会（Association of Pacific Rim Universities：APRU）は、昨年に引き続き、第 2 回目のマルチハザードプログラムサマースクールを東北大学において、7 月 22-25 日の 4 日間にわたり開催しました。7 か国から、のべ 47 名が参加しました。開会式では、里見進東北大学総長、アンドレ・エデルホフ APRU 事務局プログラムディレクター、今村文彦 IRIDeS 所長（災害リスク研究部門）が開会の挨拶をされました。当研究所からは、奥村誠教授（副所長、人間・社会対応研究部門）、江川新一教授（災害医学研究部門）、村尾修教授（地域・都市再生研究部門）、小野裕一教授、小野田泰明教授、泉貴子特任准教授（以上、情報管理・社会連携部門）、保田真理助手（災害リスク研究部門）が参加しました。

今年は「大災害への備え：2015 年国連防災世界会議に向けて」と題して、東北大学環境科学研究科の堀江進也助手を交え、東日本大震災からの教訓や経験をもとに復興、災害医療、教育、まちづくり、兵庫行動枠組、キャンパスセーフティーなどの様々な観点から講義を行いました。講義タイトルは以下の通りです。

- 奥村誠教授「災害科学国際研究所の活動」
- 江川新一教授「防災における災害医療」
- 堀江進也助手「災害」
- 小野田泰明教授「東日本大震災からの復興における役割と課題」
- 村尾修教授「兵庫行動枠組」
- 泉貴子特任准教授「キャンパスセーフティー」
- 保田真理助手「津波への災害対応能力を向上させるための実践的災害教育プログラム」

さらに、海外からはカリフォルニア大学デービス校とハワイの太平洋津波警報センター、地方自治体からは仙台市と多賀城市にご講演いただきました。また、企業からは、当研究所との共同プロジェクトでもある「カケアガレ！日本」について、株式会社電通よりご発表頂きました。

23 日と 25 日の午後には、それぞれ「キャンパスセーフティー」と「国連防災世界会議にむけて」について、グループ討議を行いました。キャンパスセーフティーについては、特にフィリピン大学やオークランド大学など、これまでも大災害を経験した国々からの参加者が、このテーマについてそれぞれの大学においても、議論を深めていきたいとの意見が寄せられました。また、2015 年の国連防災世界会議についてのグループ討議では、防災分野で関心の高いテーマを地域別に整理し、何が会議の場で主な課題と成りえるかについて議論を行いました。

24 日の巡検では、南三陸町の防災庁舎や、気仙沼のシャークミュージアム、リアスアーク美術館、また気仙沼サテライトオフィスを訪問しました。参加者は、それぞれの見学地で、関係者より被害状況・復興についての説明を受けるとともに、東日本大震災に関する展示物を真剣に見学していました。

参加者からは、「今後の研究に役立った」、「東日本大震災からの復興の様子が学べてよかった」、「様々な国々の学生や研究者とのネットワークができてよかった」などのフィードバックがありました。参加者からの意見やアドバイスをもちに、来年のサマースクールのプログラムをさらに充実させていきたいと考えています。



里見総長の挨拶



今村所長からHFAレビューレポートの紹介



参加者の質問に答える奥村副所長



グループ討議



全体写真



気仙沼サテライトオフィス



南三陸町 | 防災庁舎を見学する参加者



リアスアーク美術館を見学する参加者